

〔調査報告〕

歴史的環境保存観光地の実態

－ 奈良県明日香村来訪客調査から －

吉 兼 秀 夫

明日香村の概要

奈良県明日香村周辺は日本の律令国家体制がはじめて形成された時代における政治・文化の中心的地域であり、重要な歴史的文化遺産が数多く存在し、古代をしのばせる歴史的風土を今に伝えている。

明日香村はここ1999年以降富本銭の出土した飛鳥池遺跡、飛鳥苑地遺跡、亀型石造物が発見された酒船石遺跡、天文図や朱雀の絵が新たに発見されたキトラ古墳など新たな考古学遺跡の発見にわき、また、テレビドラマの舞台となったり、数多くに取材陣の来訪などで、高松塚古墳発見以来20年ぶりの飛鳥ブームが到来している。

また、これら村内の歴史的環境を保存するためにこれまでに古都保存法や明日香村特別措置法などの法律が施行されて、法体制の下で諸規制をとまなう歴史的環境保存が行われてきたが、明日香法下での第3次整備計画では歴史的遺産の創造的活用がうたわれ、ただ、規制のもとで凍結的に保存するだけでなく、歴史的遺産の積極的活用による地域活性化が求められようとしている。そこでは、新しい観光のあり方も模索されなければならない。筆者はこれまで、明日香村の観光客調査を1987年、1994年と2回調査してきたが、新たな展開にある明日香村での観光の現状を観光客調査からみていきたい¹⁾。

調査概要

1. 調査目的

本調査の目的は歴史的風土保存に努力する明

日香村への来訪客に対するアンケート調査を通して来訪者の属性、来訪回数、旅行形態、同伴者・同伴人数、利用交通機関、利用情報、来訪のきっかけ、来訪目的、立ち寄り先、昼食行動、土産品購買行動、明日香村認知度、体験観光希望内容、明日香村評価、再来希望などを明らかにし、明日香村の観光実態を分析し、明日香村観光の施策に資するための資料を作成することにある。

2. 調査方法

調査は質問紙を用いて行い、2000年11月23日（祝日）26日（日曜日）の2日間に面接法によって実施した。調査日の天候は両日とも「晴」であった。

調査場所は石舞台、高松塚古墳、亀石、飛鳥寺、酒船石の5カ所である。

3. 回収数

回収数は405票であったが、有効票403票を集計分析に用いた。

4. 集計分析

1987年、1994年調査と比較可能なものについては比較表を作成するよう努めた。

調査結果

1. 回答者の属性

1) 性別

性別は男性が53.6%、女性41.9%、不明4.5%で男性が女性を11.7ポイント上回っている。

2) 年齢

年齢は20代が22.3%で最も多く、50代(21.3%) 40代(19.9%)が続いている。30代以下の若年層41.9%と40-50代の中年層が41.2%とほぼ同数で、60代以上が14.9%となっており、これまでの調査では最も年齢分布が平均化している。

性別には女性が10-20代が37.3%と集中しており、40代も21.9%で男性を上回っている。それに対し、男性は50代(25.0% > 18.9%) 60代以上(22.2% > 7.1%)で女性を上回っている。

3) 職業

会社員が43.7%で最も多く、主婦(16.7%) 学生生徒(9.7%)が続き、以下無職(7.2%) 自

営業(5.2%) 教員(4.5%) 専門職(4.5%) となっている。教員・専門職が比較的多いのが特徴であろう。

4) 発地

大阪府が33.5%で最も多く、奈良県が22.1%で続き、兵庫県(9.2%) 京都府(8.2%) など関西地方が75.2%で4分の3を占めている。この他では愛知県(5.5%) など東海地方が10.7%、東京都(5.0%) など関東地方が7.7%となっている。関西中心の傾向は前回調査と同じ傾向である。しかし、その他の地域は少なくなっているものの、北海道から九州まで30都道府県からの来訪者がみられ、全国から来訪していることが分かる。

性別には女性は「奈良県内」が30.2%と男性(16.7%)を大きく上回っているのに対し、男性は「大阪府」(38.2%) 「その他」(26.4%)が多くなっている。

表1 性別年齢構成

	10-20代	30代	40代	50代	60以上	不明	母数
男性	17.6	15.3	19.9	25.0	22.2	0.0	216
女性	37.3	13.6	21.9	18.9	7.1	1.2	169
全体	25.8	16.1	19.9	21.3	14.9	2.0	403
1987年	45.2	19.6	11.5	14.4	8.6	0.0	400
1994年	15.5	15.5	28.0	25.5	15.5	0.0	200

母数は実数、その他は%(以下の表も同じ)

表2 性別発地

	奈良県	大阪府	その他の関西	関東	東海	その他	母数
男性	16.7	38.0	19.0	7.4	12.5	6.5	216
女性	30.2	28.4	19.5	7.7	7.7	6.5	169
全体	22.1	33.5	19.6	7.7	10.7	6.5	403
1994年	18.5	47.0	10.0	9.0	12.5	2.5	200

表3 年齢別来訪回数

	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6-9回目	10回以上	不明	母数
10-20代	44.2	21.2	11.5	6.7	4.8	2.9	7.7	1.0	104
30代	30.8	24.6	7.7	12.3	6.2	4.6	13.8	0.0	65
40代	37.5	16.3	15.0	3.8	6.3	7.5	11.3	2.5	80
50代	25.6	24.4	17.4	3.5	8.1	5.8	15.1	0.0	86
60以上	35.0	18.3	3.3	8.3	10.0	5.0	20.0	0.0	60
全体	35.5	20.8	11.7	6.7	6.7	5.0	12.9	0.7	403
1987年	45.0	30.6		10.0		4.3	8.6	1.4	400
1994年	39.5	39.5		10.0		10.5	0.5	0.0	200

2. 来訪回数と旅行形態

1) 来訪回数

来訪回数で「はじめて」が35.8%で最も多く、2回目が20.8%、3回目が11.7%であった。「10回以上」の多頻回来訪者は12.9%と多くなっている。リピーターの合計は63.8%である。

過去の調査と比較すると、リピーターが55%→60.5%→63.8%と増加している。

年齢別には10-20代(44.2%)と40代(37.5%)

%)で「はじめて」が多く、50代、60代以上でリピーターが多くなっている。とくに60代以上では10回以上が20.0%、5回以上が累積で35%と多頻回来訪者が多くなっている。

旅行形態別には日帰りの方がリピーターが多いのに対し、宿泊者は「はじめて」が56.9%と非常に多くなっている。

調査地点別には高松塚古墳で「はじめて」(53.7%)の人が過半数を占めるに対し、石舞台古墳では「10回以上」が17.6%をはじめ、多頻回層が多くなっている。酒船石では「2回」が41.5%と多く、飛鳥寺は3回から5回の人が多くなっている。亀石は「はじめて」の人(39.8%)と多頻回層がともに多くなっている。

地区別に見ると、奈良県はリピーターが86.5%と大半がリピーターであり、「10回以上」の多頻回層が33.7%と多くなっている。大阪府、その他の関西もリピーターが多く、それぞれ64.5%、69.6%である。その他の地区は「初めて」が61.0%と多い。

域内交通別には徒歩のみの人にリピーターが70%近くで最も多く、レンタサイクルは「初めて」が47.2%と多くなっている。

2) 旅行形態

旅行形態は「日帰り」が85.6%と圧倒的に多く、宿泊は12.7%(51名)である。そのうち明日香村に宿泊する人は11名で実質的な宿泊者は

2.7%にすぎない。明日香村外に宿泊する人を「通過客」とするとその「日帰り」・「通過客」・「宿泊」の割合はそれぞれ85.6%・9.9%・2.7%となる。前回(1994年)の87.5%:9.5%;3%とほぼ同じ傾向である。

宿泊者の宿泊数は2泊が26.8%で最も多く、1泊と3泊が共に19.6%となっており、平均値が2.7日であった。明日香村村内での宿泊数については11名中6名(54.5%)が1泊、2泊と3泊が各2名、5泊が1名であった。

年齢別にみると、30代(21.5%)40代(13.5%)で若干「宿泊」が多くなっている。

調査地点別には石舞台と亀石は日帰りが多く、飛鳥寺は宿泊客が33.8%と広域観光の立ち寄り先となっている。

3) 滞在時間

滞在時間は平均249分(4時間9分)である。

3. 同伴者と同伴人数

1) 同伴者

同伴者は「夫婦」が27.3%で最も多く、「家族一緒」(22.8%)とあわせると家族連れが50.1%と半数である。これに「友人知人」(25.3%)「恋人と」(6.7%)の友人知人連れが34%で続く。「一人で」も9.7%と多く、団体関連は6.9%と少なくなっている。

男性は「一人で」(17.6%)「夫婦で」(39.6%)

表4 性別・年齢別同伴者

	一人で	夫婦で	家族で	友人知人と	恋人と	職場学校団体	旅行会社募集旅行	その他	母数
男性	17.6	36.6	18.5	11.1	7.4	6.9	0.9	0.0	216
女性	0.3	16.0	29.0	40.8	5.9	5.4	1.2	1.2	169
10-20代	1.9	8.7	18.3	41.3	23.1	5.8	1.0	0.0	104
30代	3.1	20.0	43.1	24.6	4.6	4.6	0.0	0.0	65
40代	8.8	32.5	35.0	16.3	0.0	5.0	2.5	0.0	80
50代	16.3	40.7	10.5	23.3	0.0	9.3	0.0	0.0	86
60以上	23.3	43.3	10.0	10.0	0.0	5.0	1.7	6.7	60
全体	9.7	27.3	22.8	25.3	6.7	5.9	1.0	1.0	403
1994年	5.5	54.5		29.5		9.0	0.0	1.5	203

「職場学校団体」(7.4%)が多いのに対し、女性は「家族で」(29.0%)「友人知人と」(40.8%)が目立っている。

年齢別には10-20代は「友人知人」(41.3%)「恋人と」(23.1%), 30代は「家族で」(43.1%) 40代も「家族で」(35.0%)が多く、50代は「一人で」が16.3%,「夫婦で」が40.7%, 60代以上ではさらに「一人で」が23.3%,「夫婦で」(43.3%)が多数を占めており、年齢による参加形態の違いを見せている。

旅行形態別には日帰りの人は「夫婦」(27.8%)「家族で」(23.2%)「恋人と」(7.8%)が多いのに対し、宿泊者は「友人知人と」(29.4%)「職場学校団体」(7.8%)「募集旅行」(5.9%)が多くなっている。

調査地点別には石舞台は「一人で」(13.3%)「恋人と」(11.5%)が相対的に多く、高松塚古墳と飛鳥寺は団体客の割合が1割を超えている。酒船石は「夫婦」(36.6%)「家族」(34.1%)が多く、亀石は「友人知人」(44.6%)が多くなっている。

利用交通機関別に見ると、貸し切りバスは当然「職場学校」(25.0%)「地域宗教招待」(18.8%)「募集旅行」(25.0%)の団体客が多く、電車は「一人で」(17.4%)「友人知人と」(32.3%)が、自家用車は「夫婦で」(30.6%)「家族で」(38.2%)「恋人と」(11.8%)が多くなっており、利用交通機関によって同伴者が違っているのが明らかである。

域内交通別にみると、徒歩のみでは「一人で」(13.9%)「夫婦で」(30.1%), レンタサイクルは「友人知人」(32.4%)が多く、車は「家族で」(34.7%)「恋人と」(14.3%)が多くなっている。

特徴が出ている。

2) 同伴人数

同伴人数をみると小人数グループが多く、2人が49.1%で最も多く、1人(9.7%)3人(16.6%)4人(8.4%)で合計83.8%を占めている。5-9人が8.4%, 10人以上は6.5%であった。

4. 交通機関

1) 交通機関

自家用車での来訪が42.2%, 電車での来訪が40.0%でほぼ同数となっている。

年齢別にみると、50代(51.2%), 60代以上(45.0%)は電車利用が多く、10-20代(51.7%), 30代(44.5%)は自家用車が多くなっている。60代以上では「貸切バス」(8.3%)「路線バス」(8.3%)利用もみられる。

旅行形態別では日帰りは「自家用車」が46.1%(宿泊は19.6%)と多く、宿泊は「電車」(45.1%)「貸切バス」(11.8%)が多くなっている。

調査地点別では酒船石で「自家用車」が63.4%と平均を大きく上回っているのが目立っている。確かに酒船石隣接の亀型石造物発掘場所には連日「名古屋」「三重」等の遠方のナンバーの自家用車が駐車していることが観察されている。飛鳥寺では「貸切バス」が11.9%みられる。高松塚と亀石は電車利用が過半数を超えている。

地区別には奈良県からは「自家用車」が52.8%と最も多く、大阪府、その他の関西からは「電車」利用が多くなっている。

表5 旅行形態別利用交通機関

	列車	自家用車	バイク	自転車	貸切バス	路線バス	その他	不明	母数
日帰り	39.1	46.1	1.4	2.0	2.6	1.4	3.5	3.8	345
宿泊	45.1	19.6	2.0	2.0	11.8	0.0	9.8	9.8	51
全体	40.0	42.2	2.0	2.0	4.0	1.5	4.5	4.5	403
1994年	56.0	33.0	0.5	1.0	0.5	4.0	1.0	1.0	200

2) 村内交通機関

村内で利用交通機関は「徒歩のみ」が53.6%と半数以上となり、「レンタサイクル」が26.8%で続き、「自家用車」は10.9%となっている。自家用車の人も車をおいて自転車ないし徒歩で歩く人が多いことが分かる。

年齢別に差があり、30代以下は「レンタサイクル」の利用が多いのに対し、50代以上は「徒歩のみ」が3分の2以上を占めている。40代はその中間である。

旅行形態別には日帰りが「徒歩のみ」(56.2%)が多いのに対し、宿泊は「レンタサイクル」の利用が39.2%と多くなっている。

調査地点別には石舞台で「徒歩のみ」が70.3%と圧倒している。調査当日大型のハイキングイベントが通過しており、その影響もあろう。石舞台古墳前の公園がお弁当を食べる昼食場所に利用されている。その他の地点では「レンタサイクル」の利用が多く、とくに、「飛鳥寺」では40.7%酒船石では46.3%となっている。また高松塚古墳、酒船石、飛鳥寺では自家用車利用が16-17%みられる。

5. 来訪のきっかけと目的

1) 来訪のきっかけ

「一度来てみたかった」(28.0%)「京都奈良のついで」(18.9%)が多く、「友人知人から」の口コミも13.2%みられる。この他に「ガイドブック」(11.4%)「遺跡ニュース」(10.2%)「NHKのテレビドラマあすか」(6.9%)がみら

れる。最近の飛鳥ブームのきっかけとなった亀型石造物などの発見やテレビドラマの影響が大きいことを物語っている。

性別にみると男性は「遺跡発見ニュース」(13.0%)や「新聞テレビ」(6.9%)「通りがかった」(17.1%)等をきっかけとしている人が多いのに対し、女性は口コミ(18.9%)が多い傾向にある。

年齢別に違いがあり、10-20代は「口コミ」(24.5%)で、30代は「ガイドブック」(26.2%)、40代は「京都奈良のついで」(26.9%)、50代は「遺跡発掘ニュース」(17.3%)などの報道と「一度来てみたかった」(34.6%)、60代以上も「遺跡発掘ニュース」(17.2%)と「一度行ってみたかった」(34.5%)が多いきっかけとなっている。

旅行形態別には日帰りは「友人知人」(13.6%)や「通りがかった」(14.5%)「一度来てみたかった」(28.7%)が多く、宿泊は「京都奈良のついで」(33.3%)「ガイドブック」(15.7%)「旅行者」(9.8%)「NHKドラマあすか」(13.7%)等が多くなっている。

調査地点別に見ると石舞台は「通りがかった」(24.8%)が多くなっている。これはハイキングの通過地点だったという意味も多く含んでいると思われる。「一度来てみたかった」(25.5%)は平均よりは低い数値である。高松塚古墳は「一度来てみたかった」(24.1%)が最も多いが、相対的には「ガイドブック」(14.8%)「友人知人」(16.7%)「NHKあすか」(11.1%)等が多く

表6 年齢別来訪情報(きっかけ)

	ガイドブック	パンフレット	ポスター	旅行者	友人知人	新聞・TV	遺跡ニュース	NHKあすか	旅行雑誌	インターネット	京都奈良のついで	一度来てみたかった	前に来て知っていた	通りがかった
10-20代	5.1	4.1	0.0	2.0	24.5	3.1	1.0	6.1	4.1	5.1	22.4	24.5	6.1	24.5
30代	26.2	1.5	1.5	4.6	6.2	3.1	10.8	10.8	1.5	0.0	15.4	23.1	1.5	23.1
40代	10.3	1.3	1.3	3.8	11.5	6.4	11.5	3.8	1.3	5.1	26.9	32.1	3.8	32.1
50代	11.1	9.9	1.2	0.0	8.6	8.6	17.3	11.1	4.9	3.7	16.0	34.6	1.2	34.6
60以上	8.6	5.2	0.0	3.2	10.3	5.2	17.2	5.2	6.9	1.7	17.2	34.5	1.7	34.5
全体	11.4	4.2	0.7	2.5	13.2	5.2	10.2	6.9	3.5	3.2	18.9	28.0	3.0	13.9

なっている。酒船石では「一度来てみたかった」(36.6%)「京都奈良のついで」(26.8%)と「遺跡ニュース」が14.6%で多くなっている。飛鳥寺では様々なきっかけの人がおり、「一度来てみたかった」(35.7%)「京都奈良のついで」(26.2%)の他に、「遺跡ニュース」(19.0%)「ガイドブック」(14.3%)「友人知人」(14.3%)「インターネット」(9.5%)等となっている。亀石は「友人知人」が20.5%と多いのが特徴で、「一度来てみたかった」(31.3%)「京都奈良のついで」(27.7%)の他、「NHKあすか」をきっかけとした人も13.3%みられる。

利用交通機関別に見ると貸し切りバスは「旅行者」(43.8%)が圧倒的に多く、電車は「ガイドブック」(13.0%)「友人知人」の口コミ(17.4%)が多く、自家用車は「一度来てみたかった」(36.5%)「京都奈良のついで」(22.4%)が多いという特徴がはっきりとみえる。

2) 目的

「自然風景・田園風景」(51.6%)「のんびり散策」(47.6%)「歴史文化財」(41.7%)を目的にする人が大半を占めている。「一度行ってみたかった」も10.9%みられる。この他「飛鳥の研究・学習」(6.0%)「写真・絵画」(5.2%)「万葉文学」(5.0%)が続いている。歴史遺産中心というより、それらを包み込む自然景観や田園風景の中をのんびり散策したいという意向がますます強くなっているように思われる。

目的は複数回答であるので、他の選択肢との

関係を見ると、「自然風景・田園景観」「写真・絵画」「のんびり散策」「飛鳥の研究・学習」の間に、また「一度行ってみたかった」と「歴史文化財」の間に相関が見られるようである。

性別には女性の方で「自然風景・田園風景」(53.8%)「のんびり散策」(52.7%)が多くなっている。

旅行形態別には差があり、日帰りが「のんびり散策」(49.3%)に対し、宿泊は「歴史文化」(54.9%)「一度行ってみたかった」(21.6%)が多くなっている。

調査地点別では石舞台、亀石は「のんびり散策」が過半数を超えて多くなっている。亀石は「自然風景・田園風景」(55.4%)も多くなっている。亀型石造物見学を主目的としていると思われる酒船石では「歴史文化財」を目的とする人が63.4%と圧倒している。高松塚古墳に来た人は複数の目的を持っており、「自然風景・田園風景」(57.4%)「歴史文化財」(48.1%)「のんびり散策」(48.1%)が多く、国営歴史公園を楽しむ姿がうかがわれる。飛鳥寺来訪者は「歴史文化財」(52.4%)の他に、「万葉文学」(11.9%)「飛鳥の研究・学習」(9.5%)と知的観光の傾向を示している。

地区別に見ると近場の奈良県は「のんびり散策」が60.7%と非常に多く、大阪府は「歴史文化財」(38.5%)「のんびり散策」(52.6%)が多く、その他の関西は「自然風景・田園景観」が63.3%と極めて多くなっている。その他の地区については「歴史文化財」(58.0%)が過半数を

表7 発地別目的

	自然風景・田園風景	歴史文化財	万葉文学	のんびり散策	写真絵画	飛鳥の研究学習	一度来てみたかった	イベントに参加した	ツアーに参加した	その他
奈良県	46.1	23.6	3.4	60.7	3.4	3.4	5.6	4.5	1.1	5.6
大阪府	54.8	38.5	4.4	52.6	3.7	6.7	8.1	1.5	0.5	3.7
その他の関西	63.3	46.8	5.1	41.8	5.1	5.1	7.6	3.8	3.8	5.1
その他	43.0	58.0	7.0	34.0	9.0	8.0	22.0	2.0	8.0	5.1
全 体	51.6	41.7	5.0	47.6	5.2	6.0	10.9	3.0	2.0	5.5

大きく超えるとともに、「一度行ってみたかった」(22.0%)も多くなっている。

6. 立寄り先

1) 村内立寄り先

村内の立ち寄り先としては23の選択肢を用意したが、上位5位は「石舞台古墳」(72.5%)「亀石」(40.4%)「高松塚古墳」(35.7%)「飛鳥寺」(32.3%)「酒船石」(23.6%)となっている。これらは全て調査実施点でもあるのでその影響もあろう。他には「橋寺」(23.3%)「岡寺」(21.6%)「甘樫丘」(18.1%)「亀型石造物」(17.6%)が2桁の立ち寄り率である。資料館では「国立飛鳥資料館」が8.2%、案内所では「飛鳥総合案内所」が4.7%、また明日香村地域振興公社の運営する「夢市」「夢販売所」は3.5%、3.0%であった。

性別には男性は「石舞台」「岡寺」等が多い

表8 域内立寄り先 (M.A.)

立寄り先	%	立寄り先	%
石舞台古墳	72.5	飛鳥坐神社	6.9
亀石	40.4	水落遺跡	6.2
高松塚古墳	35.7	伝承板蓋宮	5.5
飛鳥寺	32.3	飛鳥総合案内所	4.7
酒船石	23.6	民俗資料館	4.2
橋寺	23.3	夢市	3.5
岡寺	21.6	夢販売所	3.0
甘樫丘	18.1	キトラ古墳	2.7
亀型石造物	17.6	犬養記念館	1.2
鬼のまな板	16.6	奥飛鳥	1.0
天武持統陵	8.2	観光会館	0.2
国立飛鳥資料館	8.2	その他	4.0

N = 403

のに対し、女性は「亀石」「飛鳥坐神社」「甘樫丘」「鬼のまな板」「水落遺跡」など歩いてめぐるコースの資源への立ち寄りが多くなっている。

年齢別にみると、10-20代、30代では立ち寄り数が少ないこと、40代は立ち寄り数が多いことに特徴がある。50代、60代以上は「石舞台古墳」「飛鳥寺」「岡寺」への立ち寄りが多く、50代ではさらに「甘樫丘」「天武持統陵」「水落遺跡」が多くなっている。

旅行形態別には日帰りに対し、宿泊は「石舞台」「高松塚古墳」「飛鳥寺」をはじめ、有名史跡を数多く立ち寄っていることが明らかである。

利用交通機関別に見ると電車はレンタサイクルや徒歩での散策が多いためか、数多くの場所に立ち寄っており、とくに、「高松塚古墳」(44.1%)「亀石」(51.6%)「岡寺」(28.6%)「鬼のまな板」(26.1%)などへの立ち寄りが目立っている。自家用車は「石舞台」(75.9%)以外の目立った立ち寄り先は少なく、貸し切りバスは「飛鳥寺」(56.3%)「国立飛鳥資料館」(12.5%)などバスの駐車できるところへの立ち寄りは比較的多くなっている。

域内交通別に見ると、レンタサイクルが最も多くの地点に立ち寄っており、徒歩がこれに続くが、山の上にある「岡寺」「甘樫丘」は徒歩の方が多くなっている。

2) 村外立ち寄り先

村外では、秋の紅葉時期であったことを反映して「談山神社」が15.9%で最も多く、「高取町の壺阪寺」(9.7%)「奈良市や斑鳩の里」(9.7%)

表9 旅行形態別域外立寄り先 (M.A.)

	壺阪寺	今井町	藤原京	談山神社	奈良市・斑鳩	京都	吉野	その他	立寄らず	母数
宿 泊	3.9	7.8	2.0	11.8	41.2	23.5	7.8	11.8	13.7	403
日帰り	10.4	4.1	4.9	16.2	4.9	4.6	4.1	15.9	49.9	51
全 体	9.7	4.5	4.5	15.9	9.7	6.9	4.5	15.4	45.2	345

「京都市」(6.9%)の順となっており、どこにも立ち寄らない人は45%程度みられた。これらの結果は調査期間中には近鉄主催の500人規模の談山神社や高取町も立ち寄るハイキングが催されていること、京都奈良観光の一訪問地として飛鳥を訪れた人が多かったことの反映とみられるが、半数以上が明日香村以外に立ち寄っている事実は宿泊、飲食、土産品全てが不足していることと関係があるものと考えられる。

年齢別にみると10-20代で「京都」が30代で「奈良市斑鳩」が多く、40代、50代で「壺坂寺」「談山神社」60代以上で「談山神社」「その他」が多くなっている。

旅行形態別には宿泊の方が当然「奈良斑鳩」(41.2%)「京都」(23.5%)はじめ村外の多くの観光地を訪ねている。

地区別に見ると奈良県、大阪府は「壺阪寺」(15.7%, 10.4%)「談山神社」(14.6%, 21.5%)が多いのに対し、その他の地区は「奈良市・斑鳩」(24.0%)「京都」(17.0%)が多くなっている。

7. 情報

1) 明日香村の情報源

村内の情報としては「レンタサイクルショップでもらうマップ」が21.6%で最も多く、「案内標識」を頼りにしている人が19.4%、近鉄飛鳥駅などに備え付けている「てくてくまっぷ」が17.4%利用されている。この他に、「市販のガイドブック」(15.9%)「その他のパンフレット」(10.9%)インターネット資料は今回は1.7%であった。

年齢別には10-20代は「案内標識」「市販地図」、30代、40代は「レンタサイクル店のマップ」「ガイドブック」が、40代は加えて「パンフレット」、50代は「てくてくマップ」(25.6%)、60代以上では「案内標識」の他「その他」が21.7%みられる。

旅行形態別には日帰りは「てくてくマップ」(18.8%)が多いが、宿泊は「ガイドブック」(39.2%)が断然多くなっている。

調査地点別では石舞台では案内標識(23.6%)と「その他」(23.0%)が多くなっている。「その他」はハイキングツアー客の場合で、その工程表ということであろう。高松塚古墳では「てくてくマップ」(22.2%)「レンタサイクル地図」(27.8%)「ガイドブック」(22.2%)が多く、酒船石では「レンタサイクルマップ」が46.3%と非常に多く、「ガイドブック」も24.4%使われている。飛鳥寺は高松塚古墳と同様で、「てくてくマップ」(19.0%)「レンタサイクルマップ」(33.3%)「ガイドブック」(21.4%)が多い。亀石では「パンフレット」(18.1%)「案内標識」(28.9%)が多くなっている。

地区別に見るとその他の地区で「ガイドブック」(32.0%)と多くなっている。電車での来訪の多かった大阪府は「てくてくマップ」が24.4%と多く、リピーターの多い奈良県は「案内標識」が多くなっている。

域内交通別に見ると、特徴があり、徒歩のみは「てくてくマップ」(23.1%)と「案内標識」(24.1%)が多いのに対し、レンタサイクルは「レンタサイクルショップでもらった地図」が

表10 域内交通別村内情報 (M.A.)

(%)

	てくてくマップ	レンタサイクル地図	パンフレット	案内標識	旅行雑誌	インターネット資料	市販地図	その他	不明	母数
徒歩のみ	23.1	7.4	10.6	13.4	24.1	4.6	1.4	3.2	14.8	216
レンタサイクル・バイク	13.0	60.2	9.3	19.4	11.1	2.8	2.8	1.9	4.6	108
車 (レンタカー含む)	6.1	6.1	14.3	20.4	18.4	4.1	2.0	12.2	18.4	49
全体	17.4	21.6	10.9	15.9	19.4	4.2	1.7	5.0	13.6	403

60.2%と圧倒的に多い。車の人は「ガイドブック」(20.4%)「市販地図」(12.2%)が多くなっている。

2) 持参資料

調査時に今情報資料として何を持っているかを自由記載で改めて聞いたところ、「ガイドブック」(18.9%)「レンタサイクルマップ」(18.9%)「てくてくマップ」(8.9%)と「観光パスポート」(5.0%)が多くなっており、家から持参するガイドブックの他に現地でもらうマップ類を参考にしていることが分かる。なお何も持参していない人が38.7%おり、飛鳥になれている人の存在も示している。

性別には男性で「ガイドブック」(20.8%)が多く、女性で「レンタサイクルマップ」(20.2%)等現地で手に入れた資料が多くなっている。

年齢別には「ガイドブック」を30代、60代以

上が「レンタサイクルマップ」を30代、40代で多く持っている。また、50代(40.7%)60代以上(53.3%)で「なし」が多くなっており、多頻回層の多さを反映している。

旅行形態別には日帰りで「レンタサイクルマップ」や「てくてくマップ」が多いのに対し宿泊はここでも「ガイドブック持参」が31.4%と多くなっている。

調査地点別では石舞台で「なし」が60.0%と多いのが特徴的である。その他では、酒船石で「レンタサイクル」が43.9%、飛鳥寺で「ガイドブック」が35.7%と多いのが目立っている。

8. 昼食と土産品および予算

1) 昼食

昼食は弁当を持参している人が47.6%と半数に近い。村内食堂を利用した人は18.9%、村外で食事をした人が7.2%みられる。昼食費の平均

表11 域内交通別持参資料(M.A.)

	ガイドブック	てくてくマップ	レンタサイクル地図	パスポート	パンフレット	ホームページ
徒歩のみ	15.3	12.0	7.4	2.8	5.6	1.4
レンタサイクル・バイク	22.2	4.6	51.9	6.5	1.9	0.0
車(レンタカー含む)	22.4	4.1	2.0	4.1	4.1	2.0
全体	18.9	8.9	18.9	5.2	4.5	1.2
	歴史公園 作成地図	その他の地図	本	その他	なし	母数
徒歩のみ	1.4	4.2	1.9	0.9	46.8	216
レンタサイクル・バイク	0.0	2.8	0.0	0.0	13.0	108
車(レンタカー含む)	4.1	6.1	0.0	0.0	55.1	49
全体	1.5	5.5	1.2	0.7	38.7	403

表12 発地別昼食

	弁当	村内食堂	旅行業者 弁当	村外	その他	不明	母数
奈良県	53.9	10.1	0.0	7.9	12.4	15.7	89
大阪府	59.3	14.8	0.0	5.9	3.0	17.0	135
その他関西	49.4	22.8	0.0	10.1	3.8	13.9	79
その他	25.0	29.0	2.0	6.0	7.0	31.0	100
合 計	47.6	18.9	0.5	7.2	6.2	19.6	403

は762円である。

性別には男性は「弁当」「村内食堂」が多いのに対し、女性は食べないことも含む「その他」が10.7%で多くなっている。

年齢別には50代（59.3%）60代以上（48.3%）で弁当持参が非常に多い。40代は31.3%が「村内食堂」で昼食を取り、10-20代、30代は「村外」が比較的多くなっている。

旅行形態別には日帰りが「弁当持参」（51.6%）に対し、宿泊は「村内食堂」（35.3%）が多くなっている。

地区別に見ると、遠方からのその他の地区が「村内食堂」（29.0%）が多くなっているが、奈良県、大阪府は「弁当持参」が過半数を超えて多くなっている。

利用交通機関別には弁当持参が電車で56.5%と多く、自家用車は意外と41.8%と少なくなっている。自家用車は「不明」が19.4%もあり、昼食の予定をはっきり立てずに来る人が多いことを示唆している。つまり、いい物があれば現地で食べるが、そうでなければ他の地区に移動する可能性を持つ層といえよう。

域内交通別に見ると徒歩のみは「弁当持参」

（54.6%）が多く、レンタサイクルは「村内食堂」が30.6%で多くなっている。車利用は「不明」が22.4%と多い。

2）土産品

土産品を購入した人は14.6%、「買う予定」と回答した人は33.3%で、46.2%の人が「買わない」と回答している。土産品購入費の平均は22000円である。

年齢別にみると10-20代は61.5%が「買わない」である。逆に50代、60代以上は「買った」「買う予定」の合計が50代で60.5%、60代以上で63.4%と多くなっている。

旅行形態別には宿泊（56.9%）の方が日帰り（46.4%）より土産品購入率は高くなっている。

地区別に見るとその他の地区は「買わない」が35.0%で、「買う」「買う予定」が多いのに対し、奈良県は「買わない」が64.0%と買わない傾向が大きくなっている。

利用交通機関別には貸し切りバスが「買わない」が12.5%と少なく土産購入の可能性が高いのに対し、電車、自家用車組は「買う予定」を含めてやっと半数程度しか土産品購入がない状態である。

3）旅行予算

旅行全体の予算は「2000円未満」が25.6%で最も多く、「5000円未満」が19.6%、「3000円未満」が16.4%が中心となっている。

性別には男性が3000円以上が多くなっているのに対し、女性は「2000円未満」（31.9%）「3000円未満」（24.3%）と低予算化が目立っている。

表13 発地別買い物

	買った	買う 予定	買わ ない	不明	母数
奈良県	13.5	18.0	64.0	4.5	89
大阪府	17.0	34.1	44.4	4.4	135
その他関西	16.5	32.9	43.0	7.6	79
その他	11.0	46.0	35.0	8.0	100
合 計	14.6	33.3	46.2	6.0	403

表14 性別旅行予算

	2千円 未満	3千円 未満	5千円 未満	7千円 未満	1万円 未満	2万円 未満	3-5万円 未満	5万円 以上	不明	母数
男 性	25.9	13.9	21.3	3.7	6.9	3.2	6.0	6.9	12.0	216
女 性	27.2	20.7	17.8	1.2	5.9	1.8	4.1	6.5	14.8	169
合 計	25.6	16.4	19.6	3.0	7.4	2.7	5.0	6.5	13.9	403

旅行形態別には当然宿泊の方が高く、日帰りが「2000円未満」(29.3%)など5000円未満に対し、宿泊は「3-5万未満」(17.6%)「5万以上」(43.1%)が中心となっている。

9. 明日香村についての認知度

明日香村に関する事項についてその認知度を聞いたところ、最も知られているのは「酒船石遺跡」(亀型石造物)の発見ニュースで50.4%である。「明日香村特別措置法」については22.3%、「観光パスポート」の存在については15.1%の認知度であった。「棚田オーナー制」(14.1%)「観光ボランティア」(13.2%)についてもかなりの認知度がみられた。

性別には男性は「明日香村特別措置法」(24.5%)「酒船石遺跡発見」(55.6%)の認知が高く、女性は「棚田オーナー制」(17.2%)「観光パスポート」(21.3%)「観光ボランティア」(16.0%)の認知が相対的に高くなっている。

年齢別には50代以上の年齢層で認知度が相対的に高い傾向があり、「明日香法」については60以上(28.3%)50代(31.4%)で4割を超え、棚田オーナー制は30代以下が認知度は1桁なのに対し、40代(22.5%)50代(23.3%)60以上(18.3%)は4分の1を超えている。「うまし酒

オーナー」では60以上が24.4%と他の世代が1桁であるのに対し、高認知度を示している。「采目宅配便」(50代:7.0%,60以上:6.7%)「酒船石遺跡発見」(50代:61.6%,60以上:53.3%)も多くなっている。

旅行形態別には日帰りは「明日香法」「棚田オーナー制」「うまし酒」等の認知が高いのに対し、宿泊は「酒船遺跡発見」のニュース(56.9%)や「観光パスポート」(25.5%)等の認知が高くなっている。

10. 今後明日香村で体験してみたいこと

明日香村で体験を希望する事柄について13の選択肢を用意して聞いたところ、最も多い期待(「したい」という選択肢をえらんだ人)は「古代食を食べる」(47.9%)「発掘体験をする」(46.4%)「専門家と飛鳥をめぐる」(45.7%)「薪能」(41.4%)であり、「自分の米や酒造り」(29.0%)「歌会」(19.4%)「古代衣装を着る」(18.9%)「蹴鞠」(18.1%)「田植えや稲刈り体験」(16.6%)「芸術家との交流」(16.6%)などとなっている。用意した選択肢の中で「したくない」が50%を超えたものは一つもなく、最近の観光客が多様な体験を希望していることが分かる。

性別には男性は「古代食」「発掘体験」「専門

表15 年齢別認知度(M.A.)

(%)

	明日香法	棚田オーナー制	うまし酒	采目宅配便	酒船石遺跡	観光パスポート	観光ボランティア	不明	母数
10-20代	8.7	3.8	2.9	1.9	34.6	20.2	4.8	49.0	104
30代	27.7	6.2	3.1	1.5	53.8	12.3	16.9	23.1	65
40代	22.5	22.5	6.3	5.0	57.5	18.8	18.8	16.3	80
50代	31.4	23.3	4.7	7.0	61.8	10.5	15.1	22.1	86
60以上	28.3	18.3	16.7	6.7	53.3	11.7	13.3	31.7	60
合計	22.3	14.1	6.5	4.2	50.4	15.1	13.2	30.0	403

*アンケート用紙の選択肢

1. 明日香村の歴史的環境を保護するため「明日香法」が制定されていること
2. 飛鳥に通って自分でお米を作る「棚田オーナー制」(棚田ルネッサンス)があること
3. 明日香村で酒米を植えて自分たちのお酒を造る「うまし酒オーナー制」があること
4. 飛鳥の特産物を宅配便で送る「采目(うねめ)の宅配便」制度があること
5. 酒船石遺跡から亀型石造物が今年発見されたこと
6. 割引制度のある観光パスポートを発行していること
7. 観光ボランティア制度があること

家とめぐる」「田植え稲刈り」「自分の米や酒造り」が多く、女性は「古代衣装」「歌会」「蹴鞠」「薪能」「芸術家との交流」への希望が多くなっている。

11. 評価

1) 項目別評価

明日香村に関することについて10の選択肢を用意して聞いたところ、もっとも評価が高かった（選択肢の「非常によい」+「まあよい」の値が大きかったもの）は「村の景観」で91.1%（52.9% + 38.2%）である。これに「案内標識」（66.5% = 25.1% + 41.4%）「トイレ・案内所」（55.4% = 18.9% + 36.5%）「地元の対応」（48.2

% = 18.9% + 29.3%）「資料館の充実度」（48.2% = 18.9% + 29.3%）「交通の便」（40.5% = 12.2% + 28.3%）が続いている。逆に評価の低かったのは（「悪い」+「やや悪い」が10%以上）「交通の便」（2.2% + 16.6%）「案内標識」（2.5% + 9.7%）「駐車場」（3.0% + 8.2%）「高齢者・障害者への配慮」（2.0% + 8.4%）「飲食場所」（0.7% + 9.7%）となっており、交通関係については意見が分かれている。

旅行形態別には日帰りの方は「村の景観」（92.2%）「駐車場」（40.0%）「交通の便」（42.0%）の評価が高く、宿泊は「トイレ・案内所」（60.8%）「資料館充実度」（54.9%）「地元の人の対応」（56.9%）が高くなっている。

表16 性別体験したいこと（M.A.）（%）

	古代食	古代衣装	発掘体験	専門家とめぐる	歌会	田植え稲刈り	飛鳥川復原	蹴鞠
男 性	47.7	13.0	45.8	46.8	15.7	17.1	13.9	12.5
女 性	50.9	27.2	48.5	45.6	25.4	16.0	13.6	24.3
合 計	47.9	18.9	46.4	45.7	19.4	16.6	13.2	18.1
	薪能	自分の米・酒	写真コンテスト	イベント	芸術家と交流	不明	母数	
男 性	35.2	30.2	14.8	12.5	12.5	21.3	216	
女 性	52.1	28.4	15.4	14.2	21.9	10.1	169	
合 計	41.4	29.0	15.4	13.4	16.6	17.1	403	

表17 明日香村評価（%）

項 目	非常によい	まあ良い	普通	やや悪い	非常に悪い	不明	評点
村の景観	52.9	38.2	5.0	0.2	0.0	3.7	1.49
案内・標識	25.1	41.4	17.1	9.7	2.5	4.2	0.80
トイレ・案内所等の充実度	18.9	36.5	30.3	6.9	2.0	5.5	0.67
資料館などの充実度	18.9	29.3	40.2	1.7	0.7	9.2	0.70
駐車場	13.4	25.3	38.5	8.2	3.0	11.7	0.43
交通の便	12.2	28.3	34.0	16.6	2.2	6.7	0.34
地元の人の対応	18.9	29.3	40.0	2.2	0.2	9.4	0.71
昼食など飲食場所	8.4	20.3	49.1	9.4	0.7	11.9	0.30
お土産店	6.9	15.1	57.3	6.9	0.0	13.6	0.25
高齢者や障害者などへの配慮	7.2	16.6	50.4	8.4	2.0	15.4	0.22

「評点」=「非常によい」× 2 + 「まあ良い」× 1 + 「普通」× 0 + 「やや悪い」× - 1 + 「非常に悪い」× - 2
除数は総対象者数403から不明を除いた数

2) 総合評価

明日香村の総合評価を10点満点でもらったところ、「8点」が39.5%で最も多く、「9点」(18.6%)「7点」(17.4%)と続き、「10点満点」は14.6%であった。平均点は8.15点と高得点であった。

性別には男性は8.04点、女性は8.29点で女性の評価が高くなっている。

旅行形態別には日帰り(8.12点)より宿泊(8.34点)の方が評価が高くなっている。

利用交通機関で異なり、「貸し切りバス」が8.54で最も高く、「電車」が8.18、自家用車が8.04で最も低くなっている。これだけで利用は判断しかねるが、貸し切りバスには資源を解説するガイドがいること、事前資料などもあること、予約制で、待ち時間なども少ないことがプラスに働いているものと思われる。電車は徒歩を中心にゆっくり飛鳥をめぐる明日香村を満喫している可能性の高いことを予想させる。自家用車は、道路や駐車場の整備の問題や、それ

ゆえに、じっくり明日香村を見ることが出来ないのではないかと予想させるものである。

12. 再来希望

明日香村にまた来たいかとの問いについては「是非来たい」が56.1%「まあ来たい」が37.0%で93.1%がまた来たいと回答している。

年齢別にみると高齢者の方がより再来希望が大きくなっている。

調査地点別にみると石舞台古墳の「是非来たい」が66.1%と他の調査地点よりも再来希望が大きくなっている。

来訪回数別にみると有意な差があり、5回以上の多頻回層の「是非来たい」が72.7%と「はじめて」(51.0%)「2-4回」(50.0%)に比べてきわめて高くなっている。来れば来るほどまた来たくなる観光地であることを示している。

13. まとめ

調査結果をまとめると以下の通りである。

- 1. 各年齢層が、まんべんなく来訪しているが、若い女性、中高年男性がやや多い傾向にある。
- 2. 大阪府、奈良県を中心に関西圏からの来訪が中心となっているが、全国30都道府県からの来訪も得ている。
- 3. リピーターの増加傾向がはっきりみられ、約3分の2がリピーターである。また、10回以上来訪経験のある多頻回来訪者は12%を越している。
- 4. 日帰り客が大半であり、明日香村に宿泊するのは2.7%に過ぎず、この傾向はいぜん変わっていない。
- 5. 同伴者は「家族連れ」が多く、「友人知人」がこ

表18 属性別評価点

		平均評価点
性別	男性	8.04
	女性	8.29
年齢	10-20代	8.15
	30代	8.15
	40代	8.06
	50代	8.13
	60以上	8.28
旅行形態	日帰り	8.12
	宿泊	8.34
利用交通機関	電車	8.18
	自家用車	8.04
	貸切バス	8.54
発地	奈良県	8.20
	大阪府	8.09
	その他関西	7.97
	その他	8.31
合計		8.15

表19 属性別再来希望

		是非来たい	まあ来たい	合計
性別	男性	59.7	34.7	94.4
	女性	55.0	37.9	92.9
年齢	10-20代	51.0	43.3	94.3
	30代	53.8	38.5	92.3
	40代	51.3	43.8	95.1
	50代	59.3	31.4	90.7
	60以上	70.0	26.7	96.7
旅行形態	日帰り	56.5	37.1	93.6
	宿泊	52.9	37.3	90.2
発地	奈良県	55.1	40.4	95.5
	大阪府	52.6	40.0	92.6
	その他関西	54.4	39.2	93.6
	その他	63.0	28.0	91.0
全体		56.1	37.0	93.1

れに続き、団体客は少なくなっている。ただし、大型のハイキングイベントなどへの参加は見られるが、参加者の意識は団体ではなく、個人参加であり、行程は一緒であるが、個人行動と捉えた方がよいと思われる。

6. 車と電車での来訪がほぼ同数であるが、若い年齢層は車で高齢層は電車利用が多くなっている。
7. 村内での行動は徒歩のみでの移動が多く、その他レンタサイクルの利用も多い。若い年齢層はレンタサイクル、中高年齢層は徒歩のみという傾向である。
8. 来訪のきっかけは「一度来てみたかったから」が今回は多く、最近の話題の影響がみられる。実際、遺跡のニュースやテレビドラマをきっかけと回答した人も多い。
9. 来訪目的は歴史的遺産見学だけでなく、田園景観や自然景観の中をのんびり散策することを目的とする人が多くなっている。
10. 立ち寄り先は石舞台古墳、高松塚古墳、亀石、飛鳥寺が多いが、2000年に発見された酒船石遺跡の亀型石造物への立ち寄りも目立っている。
11. 情報は徒歩の人が「てくてくマップ」、レンタサイクル利用の人が「レンタサイクルショップでもらう地図」、車利用の人が「ガイドブック」を頼りとし、実際それらを持参して参考としている。
12. 昼食は弁当持参が多く、村内の食堂を利用する割合は2割弱である。
13. 土産を買う人は「買う予定」を含めて半数強であるが、奈良県内の近在からの来訪者は買わない傾向である。
14. 明日香村のことについての認知については酒船石遺跡が5割を超えるが、明日香法が2割程度で、その他はそれ以下である。
15. 明日香村で体験してみたいこととしては「古代食」「発掘体験」「専門家とめぐる」「薪能」等が人気があり、飛鳥らしい体験を求めている。

16. 明日香村に対する評価を項目をあげて聞くと、「村の景観」は非常に高い評価を得ている。「地元の対応」や「案内標識」「トイレ・案内所」もかなり評価されているが「土産店」「高齢者・障害者への配慮」等はやや低くなっている。
17. 総合評価では10点満点8.15点と高得点となっている。
18. 従って、再来希望も93%に達しており、観光客の満足度が高くなっていることをあらわしている。
19. 1987年、1994年の調査と比較すると、リピーターが増加傾向にあり、来訪者の属性がどの性別、年齢にも偏らない来訪を受けるようになっており、関西中心に来訪を受けながら全国からの来訪を受け続けていることが分かる。来訪目的も、飛鳥時代の遺跡だけにこだわらず、それらを含む明日香村の景観の中で散策することが大きな目的になってきている。また、明日香村に対する評価は高くなってきており、今後の整備にますます期待がかけられる状況といえよう。

このように、観光客からみた明日香村観光の実態は受け入れ体制の整備が進み、観光への取り組みや意識の変化が観光客への高い満足度となっていることを示すものである。

従来明日香法によって護られた遺跡を中心とした「飛鳥」への評価中心からそれらを含んだ明日香村全体への評価に変わろうとしていることは歓迎すべきことである。また、観光客の増大傾向が村内での観光拒否現象を大きく再燃させることなく、むしろこれらを暖かく受け入れようとする傾向は観光ボランティアガイドへの評価をはじめ、好印象につながっているものと思われる。

しかし、観光地として不十分なところはまだまだ多く、観光地としての基本的な要素である、飲食、土産そして宿泊がまだまだ未成熟であることは否めない。観光をめぐる環境は変化しており、

高質化している。国際化，情報化，高齢化，環境にやさしいなどの要求に対し，きめ細かく対応していくことが望まれよう。そしてそれらが行政主導から民間主導，住民主導の要素をより強く持てるようになることが大切なことである。

注

- 1) 1987年調査については『住民調査にみる歴史的環境保存の実態と意識』1987年（財）環境文化研究所発行，40-55ページ参照。

1994年調査については拙稿「明日香村来訪者の実態」『環境文化研究所研究紀要』5号，1995年，41-46ページ参照。

明日香村の歴史的環境保存については拙稿「遺跡保存と住民生活」『歴史的環境の社会学』新曜社，2000年，27-50ページ参照。

【謝 辞】

本調査は飛鳥保存財団の依頼により，実施したものである。調査実施に際し，財団の方々，調査場所として使用を認めていただいた国営飛鳥歴史公園の方々，アンケート調査員，集計作業に協力してくれた吉兼ゼミ，吉兼基礎ゼミ，前田ゼミの諸君に感謝の意を申し上げます。

（2001年5月14日受理）